

## 4. 学会発表

### 4. 1. 国内学会

1. 片岡 新, 信迫悟志, 中井昭夫

年長児における平仮名・片仮名視写能力に影響する発達特性の検討—文字別における書字判読性の関連について—

第 4 回日本 DCD 学会. 2021 年 4 月@WEB

TD 児 39 名の視写課題を行い、発達特性と書いた字の読みやすさを検討した。その結果、DCD 特性のある児では書字の視写課題全般に、ADHD 特性のある児では画数や曲線の構成が書いた字の読みやすさに関係することが示唆された。

2. 林田一輝, 西 祐樹, 松川 拓, 永瀬裕也, 森岡 周

他者に強制された行為に伴う痛みは行為主体感を減弱させる

第 25 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会. 2021 年 5 月@WEB

自由選択あるいは他者強制によって生じる痛みが行為主体感に及ぼす影響を調べた。実験の結果、他者強制による行為に伴う痛みの惹起は主体感を減弱させた。痛み関連行動の動機付けには、自由選択に基づく運動課題の提供が重要であることが示唆された。

3. 藤井 廉, 今井亮太, 重藤隼人, 田中慎一郎, 森岡 周

腰痛有訴者における作業関連動作時の体幹運動制御障害に関連する要因分析

第 25 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会. 2021 年 5 月@WEB

腰痛を有する就労者を対象に、「重量物持ち上げ動作」をする際の腰椎-骨盤の運動制御障害の特性を分析し、関連要因を調査した。その結果、腰痛によって腰椎-骨盤は時空間的に一致した運動（同位相化）を呈しており、その運動パターンには運動恐怖が関与していた。

4. 西 祐樹, 重藤隼人, 藤井 廉, 大住倫弘, 森岡 周  
慢性腰痛者における歩行時の体幹運動制御の変調は環境に依存する  
—非線形解析を用いて—  
第 25 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会. 2021 年 5 月@WEB  
慢性腰痛者の歩行を外来環境と日常生活環境において加速度計にて計測した.  
日常生活環境では歩行制御が乱れることを明らかにした.
  
5. 田中陽一, 重藤隼人, 佐藤剛介, 藤井 廉, 今井亮太, 大住倫弘  
森岡 周  
疼痛律動性と身体活動量の関係に着目した患者教育の効果:症例報告  
第 25 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会. 2021 年 5 月@WEB  
単一症例を対象に, 疼痛律動性と身体活動量を初期評価に加え双方の関連性に着  
目した初期評価を実施した. 律動性と活動量の関係性に着目した患者教育を行い,  
行動変容を促した結果, 着目していた午後からの痛みのリズムと活動量に良好な  
変化が認められた. 患者教育に疼痛律動性や身体活動量の関係性を加えると疼痛  
管理を目的とした介入の新たな視点となりえることを報告した.
  
6. 重藤隼人, 古賀優之, 田中陽一, 平川善之, 森岡 周  
中枢性感作症候群は痛みの重症化に影響する-横断的研究-  
第 25 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会. 2021 年 5 月@WEB  
入院あるいは通院中の疼痛患者 127 名を対象に, 痛みの性質別に痛みの重症化に  
影響する因子を検証した. その結果, 痛みの性質に関わらず, 中枢性感作症候群の  
重症度は, 痛みの重症化に影響することを明らかにした.
  
7. 岡田洋平, 大塚裕之, 鎌田理之, 山本 哲, 澤田 誠, 川崎 翼,  
中村潤二, 岡本昌幸, 成田 雅, 二階堂泰隆, 浦上英之, 森岡 周,  
庄本康治, 服部信孝  
第 15 回パーキンソン病・運動障害疾コンgres. 2021 年 5 月@仙台  
疾患早期から中期の PD 患者に対して長期間理学療法を行うことにより, 運動症  
状の進行と抗 PD 薬内服量の増加を抑制する効果があることをメタアナリシスに  
より明らかにした.

8. 藤井 廉, 今井亮太, 重藤隼人, 田中慎一郎, 森岡 周  
課題特異的な痛み関連恐怖は体幹の運動制御に影響する—腰痛有訴者における作業関連動作の分析—  
第 9 回日本運動器理学療法学会学術大会. 2021 年 9 月@WEB  
腰痛を有する就労者の作業関連動作時の体幹運動制御障害の影響因子を分析した. その結果, 課題特異的に生じる運動恐怖によって, 上部-下部体幹運動の同位相化(上部-下部体幹運動が時空間的に一致した様相)が生じることを明らかにした.
  
9. 重藤隼人, 古賀優之, 田中陽一, 平川善之, 森岡 周  
痛みの出現様式と重症化に関連する特異的因子  
—一般化線形混合モデルを用いて—  
第 9 回日本運動器理学療法学会学術大会. 2021 年 9 月@WEB  
入院あるいは通院中の疼痛患者 74 名を対象に, 個体差を考慮できる一般化線形混合モデル(GLMM)を用いて, 運動時, 安静時, 夜間時の痛みの重症化に特徴的な関連因子を検討した. 本研究の結果, 運動時痛および夜間時痛には感情表現や破局的思考といった心理要因が関連していた. また, 運動時痛には身体知覚異常と持続痛が関連し, 夜間時痛には神経障害性疼痛が関連していることを明らかにした.
  
10. 河野正志, 寺田 萌, 松川 拓, 市村幸盛, 信迫悟志  
非麻痺側での手指模倣時に運動主体感の異常を訴えた左半球損傷の事例: 視覚遅延検出課題と Agency attribution task を用いた検討  
第 55 回日本作業療法学会. 2021 年 9 月@WEB  
脳卒中後失行症 1 例に対する感覚-運動統合機能と行為主体感の介入前後の変化について報告した. 介入前, 感覚-運動統合機能の低下および行為主体感の変容を認めたが, 介入後失行症状の改善に伴いそれらの改善が認められた.
  
11. 石橋凜太郎, 河野正志, 松川 拓, 寺田 萌, 信迫悟志, 森岡 周  
失行症患者の行為主体感は変容しているか? 映像遅延検出課題と Keio method を用いた検討  
第 21 回認知神経リハビリテーション学会学術集会. 2021 年 10 月@WEB  
脳卒中後失行症では, 失行症状と映像遅延検出課題で測定される感覚運動統合機能の低下, SoA 課題で測定される行為主体感の時間窓の延長との間に相関関係があり, 失行症では行為主体感の変容を伴う可能性が示唆された.

12. 松川 拓, 石橋凜太郎, 下村亮太, 河野正志, 信迫悟志, 森岡 周  
失行症患者における行為主体感の変化：一症例による検討  
第 21 回認知神経リハビリテーション学会学術集会. 2021 年 10 月@  
WEB  
脳卒中後失行症例 1 名において, 介入前後で失行症状の改善に伴い映像遅延検出  
課題で測定される感覚-運動統合機能と SoA 課題で測定される行為主体感の誤帰属  
(過剰帰属) が改善することを報告した. 顕在的な行為主体感 (内省) については  
大きな変化がなかったことから, 行為主体感の客観的側面と主観的側面は乖離す  
る可能性が示唆された.
  
13. 重藤隼人, 古賀優之, 田中陽一, 平川善之, 森岡 周  
急性痛と慢性疼痛における運動時痛に関連する特異的因子の検証  
—一般化線形混合モデルを用いて—  
第 13 回日本運動器疼痛学会. 2021 年 11 月@WEB  
疼痛発症後 1 カ月以内の急性痛患者 49 名, 3 カ月以上の慢性疼痛患者 160 名を対  
象に, 個体差を考慮できる一般化線形混合モデル(GLMM)を用いて, 急性痛と慢性  
疼痛における運動時痛に特徴的な関連因子を比較検証した. 本研究の結果, 運動時  
痛の関連因子として, 急性痛では間欠痛が, 慢性疼痛では身体知覚異常, 感情表現  
が関与していたことを明らかにした.
  
14. 田中陽一, 高村優作, 重藤隼人, 藤井 廉, 佐藤剛介, 森岡 周  
慢性疼痛患者の日間変動は神経障害性疼痛と QOL との関係を媒介する  
第 13 回日本運動器疼痛学会. 2021 年 11 月@WEB  
慢性疼痛患者を対象に疼痛の日間変動の程度に関連する要因の検討を行った. 結  
果, 神経障害性疼痛の重症度が高いほど日間変動が大きくなり, その結果 QOL が  
低下することが明らかとなった.
  
15. 藤井 廉, 今井亮太, 重藤隼人, 田中慎一郎, 森岡 周  
作業関連動作時の体幹運動を阻害する要因の分析—課題特異的な運動  
恐怖に着目して—  
第 8 回日本予防理学療法学会学術大会. 2021 年 11 月@WEB  
腰痛を有する就労者の体幹運動制御障害には, 「全般的な運動恐怖」と「課題特異  
的な運動恐怖」のどちらがより影響するのかを分析した. その結果, 課題特異的な  
運動恐怖の方がより影響することを明らかにした.

16. 水田直道, 蓮井成仁, 西 祐樹, 比嘉康敬, 松永綾香, 出口純次, 山本泰忠, 中谷知生, 田口潤智, 森岡 周  
脳卒中患者における歩行の時間的非対称性と筋シナジーパターン—聴覚刺激を使用した実験的研究—  
第 19 回日本神経理学療法学会学術大会. 2021 年 12 月@WEB  
脳卒中患者の歩行時にリズム聴覚刺激を併用することで麻痺側単脚支持時間が即時的に増加し, 時間的非対称性が改善した. リズム聴覚刺激条件は快適歩行条件よりも筋シナジーが複雑に表現され, 麻痺側単脚支持時間は運動学的パラメータよりも筋シナジーに影響していることを明らかにした.
17. 藤井慎太郎, 高村優作, 生野公貴, 森岡 周, 河島則天  
パーキンソン病患者における静止立位時の姿勢障害の特徴分析—PD 関連運動機能障害の違いに着目して—  
第 19 回日本神経理学療法学会学術大会. 2021 年 12 月@WEB  
PD 患者および健常成人の静止立位時の重心動揺を分析し, 因子分析およびクラスター分析を実施することで PD 患者における姿勢障害の特徴分類を試みた. 抽出された 5 因子より 6 つのクラスターに分類され, 各クラスターの姿勢障害特性に応じて, PD 関連運動障害の違いを認めた.
18. 赤口 諒, 田中幸平, 大石裕也, 生田純一, 上田有姫, 脇坂成重, 高村優作, 奥埜博之, 森岡 周, 河島則天  
脳卒中患者の物体把持力調節の特徴—把持動作時の過剰出力, 予測調節に着目して—  
第 19 回日本神経理学療法学会学術大会. 2021 年 12 月@WEB  
脳卒中患者の物体把持動作時の力調節に焦点を充て, 物体重量に応じた把持力調節, 安定性, 予測調節の観点から同症例の特徴を検討し, 脳卒中患者では把持力は過剰となり, 安定性を欠き, 予測調節が停滞していることを示し, 感覚障害との関連が強いことを明らかにした.
19. 浦上慎司, 大住倫弘, 松田総一郎, 井川祐樹, 壹岐伸弥, 古賀優之, 田中陽一, 佐藤剛介, 植田耕造  
脳卒中後疼痛の痛みの性質による分類と特徴  
第 19 回日本神経理学療法学会学術大会. 2021 年 12 月@WEB  
脳卒中後疼痛患者を対象に, 痛みの性質(Neuropathic pain inventory)を評価し, サブグループ解析を行い, それぞれのグループの臨床的特徴を明らかにした.

20. 植田耕造, 岡田洋平, 森岡 周  
テント下脳卒中患者の静止立位時の左右足圧中心位置に関連する要因  
ー後ろ向き横断研究ー  
第 19 回日本神経理学療法学会学術大会. 2021 年 12 月@WEB  
テント下の脳卒中患者の静止立位時の左右足圧中心位置に関連する要因を後ろ向きに調査し, 先行研究で示されていた自覚的視性垂直位以外に, 足圧中心が偏位する方向側の下肢の姿勢制御機能の低下が足圧中心の左右偏位に関連していることを明らかにした.
21. 岩淵翔一, 森岡 周  
行動観察課題の低速提示がミラーニューロンシステムの活動に及ぼす影響  
第 61 回近畿理学療法学会学術大会. 2022 年 1 月@WEB  
行動観察課題を低速提示することでミラーニューロンシステム (MNS) の活動がどのように変化するかを脳波を用いて検証した. その結果, 複雑な課題を低速で提示することは MNS の活動を活性化する可能性があることを明らかにした.
22. 田中智哉, 森岡 周  
恐怖を与える言語情報は身体所有感に影響を及ぼすラバーハンド錯覚を用いて  
第 61 回近畿理学療法学会学術大会. 2022 年 1 月@WEB  
言語情報による文脈が身体所有感と疼痛閾値に与える影響を, 健常成人を対象にしたラバーハンド錯覚を用いて検証した. その結果, 主観的な身体所有感を上昇させることを明らかにした.
23. 中西康二, 植田耕造, 森岡 周  
静止立位時の随意的制御と自動的制御における下腿筋の共収縮と筋内・筋間コヒーレンスの違い  
第 61 回近畿理学療法学会学術大会. 2022 年 1 月@WEB  
静止立位時の随意的制御と自動的制御における下腿筋の共収縮と筋内・筋間コヒーレンスの違いを調べ, 双方ともに共収縮と  $\beta$  帯域のコヒーレンスとの関連が乏しいことが示唆された.
24. 小松健矢, 森岡 周  
ステップ動作時の痛み関連恐怖が予測的姿勢調節に及ぼす影響  
第 61 回近畿理学療法学会学術大会. 2022 年 1 月@WEB  
健常者の下肢に対する痛み関連恐怖は下肢運動と電気刺激の同期に伴う痛み恐怖条件付けにより習得することが示された. その習得した下肢の痛み関連恐怖は APA や運動行動に影響を及ぼすことを明らかにした.